

石見銀山基金事業の選定結果について

選定結果

認定事業に5件、審査事業に5件応募され、選定委員会（委員長 井上定彦）により、公開プレゼンテーションを行った。選定された結果、合計10団体（小・中学校の申請は26校あったがまとめて1団体とする）全てが認定された。

以下に資料を付けてあります。

- ・選定委員会委員名簿
- ・石見銀山基金事業のリスト
- ・石見銀山基金事業の審査表（結果表）
- ・選定基準

石見銀山基金事業選定委員会委員名簿

< 選定委員会は委員 7 名以内で構成し、委員の任期は 3 年 >

| 区分 | 氏名 | 職業・所属団体・役職 | 備考 |
|-----------------|-------|-------------------|------|
| 学識経験者 | 井上 定彦 | 島根県立大学 教授 | 委員長 |
| | 渡邊 一正 | 鳥取環境大学 教授 | 副委員長 |
| | 佐々木 愛 | 島根大学 准教授 | |
| 石見銀山基金 募金委員会 | 梅 恒雄 | 大田商工会議所 専務理事 | |
| 行政 | 松本 岩雄 | 島根県 教育委員会 文化財課 課長 | |
| | 蓮花 正晴 | 大田市 副市長 | |

梅委員は当日、所用のため欠席

石見銀山基金事業 認定事業リスト

| グループ | 申請団体名 | 事業概要・効果 |
|------------|-------------|---|
| 石見銀山を守る活動 | 馬路地区社会福祉協議会 | 6月初旬に銀の積出港である鞆ヶ浦と銀山街道鞆ヶ浦道の一部の草刈り・ゴミ拾いを行うことで環境美化が期待できる。 |
| | 銀和会 | 4月、7月、9月、11月に市道銀山線、遊歩道の竹刈り・草刈り 銀山川のゴミ拾いを行うことで、景観がよくなり来訪者が満足し、石見銀山の価値が高まることで期待できる。 |
| | 大森町自治会協議会 | 春と秋に県道仁摩・邑南線・町並み・銀山川・宮の前の草刈り・ゴミ拾いや、2月頃に大森町内の樹木の剪定を行うことで来訪者を気持ち良く受け入れ、環境美化の意識が高まる景観保全につながることで期待できる。また、子どもと一緒に参加するので、次世代へ引き継ぐ活動となる。 |
| | しまね樹木医会 | サクラの維持管理に関する研修会の開催と大森町内のサクラの樹勢回復作業を行うことでサクラの維持管理の協力者の拡大や景観の向上が期待できる。 |
| 石見銀山を伝える活動 | 大田市内小・中学校 | 大田市内の21校の小・中学校が石見銀山を訪れ体験活動を通して学習することで、郷土への誇りと愛着の醸成が期待できる。 |

石見銀山基金事業 審査事業リスト

| グループ | 申請団体名 | 事業概要・効果 |
|------------|------------------------|---|
| 石見銀山を活かす活動 | 特定非営利活動法人 緑と水の連絡会議 | ツアーを組みボランティアによる竹刈り ツアー参加者への石見銀山ガイドンズを行うことで、景観向上、石見銀山のファンを増やすことで期待できる。 |
| | 石見銀山ガイドの会 | 街道のウォークを通して石見銀山の関心、理解が深まり、来訪者の増加が期待でき、地域の活性化が期待できる。 【コース】 温泉津沖泊道コース、馬路鞆ヶ浦コース、本谷 龍源寺間歩コース、山吹城跡・石銀コース、世界遺産センター・清水谷コース、鞆ヶ浦・海上コース、尾道ルート |
| 石見銀山を究める活動 | 石見銀山の非文字史料を知る会 | 関東、山口、愛知で石州銀の類例調査を行い、リスト作成することで、石見銀山の調査研究が多角的に進められ、博物館での展覧会資料としての活用が期待できる。 |
| | 石見銀山地質研究会 | 仙ノ山が属する大江高山群の地質を調査することで、石見銀山の価値が一層高まり、地域の理解が深まり、地域への誇りにつながる。また、新たな観光資源開発や地域防災対策にもつながる可能性が期待できる。 |
| 石見銀山を伝える活動 | NPO法人しまね歴史文化ネットワークもくもく | 石見銀山の歴史、生活・文化、遺跡調査などに関する講座や現地踏査などのフィールドワークを組み合わせた3泊4日の講座を開催することで、石見銀山の価値を学んだ人達が全国に石見銀山を発信してくれることが期待できる。 |

石見銀山基金事業選定委員会 認定事業審査表

| グループ | 申請団体 | 認定すべき | 認定すべきでない |
|------------|-------------|-------|----------|
| 石見銀山を守る活動 | 馬路地区社会福祉協議会 | | |
| | 銀和会 | | |
| | 大森町自治会協議会 | | |
| | しまね樹木医会 | | |
| 石見銀山を伝える活動 | 大田市内小・中学校 | | |

石見銀山基金事業選定委員会 審査事業審査表

| グループ | 申請団体 | A委員 | B委員 | C委員 | D委員 | E委員 | 合計 | 備考 |
|----------------|---------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| | | | | | | | 継承性 | |
| 石見銀山を 活かす活動 | 特定非営利活動法人 緑と水の連絡会議 | 21 | 19 | 21 | 25 | 20 | 106 | |
| | | | | | | | 22 | |
| 石見銀山を 活かす活動 | 石見銀山ガイドの会 | 24 | 18 | 23 | 20 | 18 | 103 | |
| | | | | | | | 20 | |
| 石見銀山を 究める活動 | 石見銀山の非文字 史料を知る会 | 19 | 18 | 21 | 18 | 17 | 93 | |
| | | | | | | | 19 | |
| 石見銀山を 伝える活動 | 石見銀山地質研究会 | 23 | 16 | 20 | 15 | 15 | 89 | 区分変更 |
| | | | | | | | 17 | |
| 石見銀山を 伝える活動 | NPO法人 しまね 歴史文化ネット ワークもくもく | 24 | 18 | 23 | 21 | 20 | 106 | |
| | | | | | | | 22 | |

選定委員会の結果、石見銀山地質研究会は、「石見銀山を究める活動」から「石見銀山を伝える活動」へ区分変更となった。

選定基準

選定委員会は、次の評価項目について審査し、その総得点の高い団体等から順次、選定事業に選定します。

ただし、継承性の合計が15点以上ない場合は、総得点が高い場合でも事業に選定しません。

(1) 評価項目及び評価の着眼点

| 評価項目 | 評価の着眼点 |
|-------|--|
| 継承性 | 地域共通の課題の存在を認識し解決を図る取組か。 未来の世代に良好な地域環境や地域社会をもたらす取組か。 目的を共有する誰もが参加できる開かれた組織による取組か。 |
| 必要性 | 社会情勢に応じてニーズが高い事業か。 取り組む必要性が明確な事業か。 |
| 公益性 | 広く地域、社会に貢献する活動か。 |
| 発展可能性 | 今後、その成果の広がりを期待できる活動か。また、次世代の育成につながる活動か。 |
| 実現可能性 | 実施体制、事業計画、資金計画、スケジュールなど実現可能な活動か。 |

(2) 評価方法

(1) の評価項目毎に別に基準を設けて、5段階評価で行います。

(最高点：5項目×5点＝25点)